

---

## おわりに

年報の終わりにあたり、3つの特筆すべきことを述べたい。

一つ目は、今年度の健診、診療とも受診者数が昨年と比べ増加した。医療を取り巻く環境は厳しく、全国病院の赤字の割合は7割に達し、病院・医科診療所の倒産・休廃業が過去最高の717件に達したにも関わらず、当三越厚生事業団の健診受診者数、診療患者数は昨年度に比べ、いずれも増加した。新たに非常勤医師が診療に当たったこともあるが、各部門の職員一人一人が自分の立場を理解し、積極的に活動してくれたためと思われた。健診者及び患者から選ばれる安心の事業団を目指し、次年度も更なる受診者数の増加を目指したい。

2つ目は、当事業団は生活習慣病を中心としているが、日本における医学の発展のため研究助成、並びに海外留学生への助成を行ってきた。今年は三越伊勢丹の事業が好調であったために助成額を大幅に増額できた。医学研究助成に24,200,000円、海外留学渡航費助成に14,000,000円をそれぞれ6名と7名に助成できた。学生や研究者の海外留学生が減少している我が国にあって、人材の育成と研究力強化のため、若手研究者を海外派遣・支援することは意義がある。留学生は帰国後に我が国の医学の発展に貢献して頂きたい。我が国では医療における働き方改革が、今真最中であり、研究時間が取れない状況あるのは否めない。その中でも、最先端の研究を行っている研究者の研究をサポートすることは国民のために資するものである。

3つ目は、医療のDX化を目指し、健診システムの再構築と電子カルテを新たに更新していることである。三越厚生事業団はこれらの事業を通じて、すべての国民健康維持に努めたい。

最後に、年報の原稿を書ってくれたスタッフ、編集にかかわった事務局、および、資料を提供してくれた三越厚生事業団職員全員に感謝を申し上げたい。

(水野 杏一 記)